



会長からの メッセージ

第21回



「ブラックボックスの罠」と 土木技術者

土木学会第100代会長

小野 武彦



と冷汗の出る想いです。

現在は、その時にも増して解析技術は高度化し、複雑な条件下での設計・研究開発が行われています。もはや手計算でチェックできるレベル

にないことは承知していますが、本質的な理解なしには大きな間違いを犯すことになりかねません。パソコンやスマートフォンなどの検

索サイトの進化と普及にも、同様の危惧を持っています。思い立つと、どこでもすぐに検索できる容易さが、思考力や記憶力を衰えさせている

ように思います。じっくり自分の頭で考えることで、気づきが生まれ、それが直感を鋭くし、思考を深め、さ

らには記憶を確かなものとするこゝとができるのです。こうしたことが、物事全体を俯瞰したり、大局的に問題をとらえたりする視点に役立

つのではないかと考えています。

われわれの大先輩である宮本武之助が、信濃川の補修工事を担当

し、「可動堰」の完成目前に遭遇し

た集中豪雨の際に、「土木屋としての任務は、人びとの暮らしを守るこゝとだ。」と、工期の遅延をもとめ

ず、仮締切りを切り、下流域に住む人びとを洪水の危機から救ったとい

うエピソードはあまりに有名です。本質的に物事を理解する力や大局観が備わつてこそ、こうした決断が

できる技術者になりうるのではないでしょう。解析手法の高度化やIT化、検

索サイトの活用を否定するつもりはありませんし、今後ますます進化

していくことは歓迎すべきことでは

ありませんが、ただ単にその流れに乗っただけの技術者には決してなつてほしくはありません。これからの技術者の皆さんには、物事の本質を理

先日、スーパーコンピューターの「京」の民間利用が始まったとの報道がありました。高度な解析に要する時間が大幅に短縮されることから、さまざまな科学技術の分野での活用が見込まれ、科学技術の発展に寄与していくものと思われま

す。一方で、こうした解析手法の高度化・高速化に対して、われわれがそれらに見合った総合的な判断力を持ち合わせているのかと不安になることがあります。「ブラックボッ

クス

クス

クス